



ベトナムで開催された「秋季フェア」

2025年10月25日～11月4日まで、ベトナムにある世界最大級の展示場であるVietnam Exposition Centreにて、「秋のフェア」が開催された。

この祭典は「人と商品・ビジネスのつながり」をテーマに開催され、2,500以上の国内外の組織・企業・団体、各中央省庁・機関、34の省や市が、製品紹介・ネットワーキング・投資協力の機会創出を目的として出展をした。約3,000ものブースが作られ、各々のブースでは地域の特産品や企業の製品などが展示、販売されていた。10月25日の開会式ではファム・ミン・チン首相が開会のスピーチを行い、「このフェアは国内消費の活性化を促し、「ベトナム人はベトナム製品を優先する」運動を推進するとともに、ベトナムの統合志向、優れた能力、進歩への志、そして現代的なビジョンを体現するものであり、政府・各省庁・産業界・国民が一体となって発揮する団結・創造性・強い決意・迅速な行動の象徴である。」と述べ、力強い意気込みを示した。チン首相は、当イベントを「商業の目的地」「文化と芸術の出会いの場」「国際的交流のハブ」と位置づけ、産業貿易省に対し、今後このイベントを「四季フェアシリーズ」や「国際秋のフェア」へと発展させ、毎年行うよう指示しました。



※JSI撮影

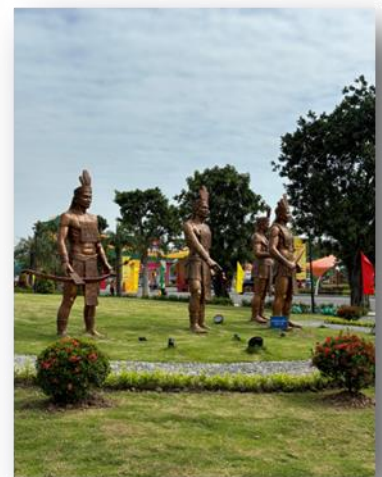


※JSI撮影

東南アジアで最も大きい展示場

今回「秋のフェア」が開催された会場は、ハノイ市北部のドンアイン地区にあるVietnam Exposition Centreだ。同会場は総面積90万㎡で世界有数の大きさを誇り、東南アジアでは最も敷地面積の大きい会場である。国内外の政治・経済・文化・観光イベントを開催できる多目的複合施設として、工期が10ヶ月未満という驚異的なスピードで竣工し、総工費は70兆ドン（約4,474億円）に達した。

展示場は金亀展示館と屋外展示エリアの2つの主要なエリアから構成される。金亀展示館は、世界最大の円形展示場である。名前の金亀（Kim quy）というのは、ドンアイン地区にあるコーロア城に伝わる神話に登場する神様が由来だ。伝説によると、金亀は悪霊を倒すためにコーロア城の王様に魔法の弩の材料になる自分の爪を与えたとされ、会場にはそれをモチーフにした像がある。屋外展示エリアは世界で3番目の大きさで、最大5万人収容の大規模なイベントが開催可能となっている。



コーロア城の神話に登場する石弓をもった兵士の像。 ※JSI撮影



ベトナムで開催された「秋のフェア」

屋外展示エリアでは、各省、市のご当地グルメが出展されていた。会場では多くの来場客が北部地域発祥のベトナム料理である「フォー（phở）」や、米でできた細い麺（ブン）と焼いた豚肉（チャー）で作られる「ブンチャー（Bún chả）」、ベトナム風クレープと呼ばれるターメリック色の生地には豚肉・エビ・もやしなどを入れて焼いた「バインセオ（Bánh xèo）」などを楽しんでいた。また、ベトナムは世界でも有数のビール消費国だ。「ビアホイ（Bia hơi）」（約60円）が親しまれており、会場にはビアガーデンが設営され、昼頃から賑わっていた。



フォー（phở）
※JSI撮影



ビアホイ（Bia hơi）
※JSI撮影



ベトナム各地域の特産品

ベトナムには数多くの伝統工芸品や果物などの特産品が存在する。写真にあるのが、ベトナムの伝統芸能である水上人形劇に使われる人形だ。水上人形は、スクリーンの後ろに水没して立つ人形遣いによって操作される。水上人形劇の歴史は深く、11世紀にまで遡る。諸説あるが、水田で知られる紅河デルタ地域の村民が娯楽の一種として、また日常生活についての物語を残し伝えるために人形劇は親しまれた。時間が経つにつれて、水上人形劇は伝統的な音楽、衣装、ストーリーテリングの技術を統合した洗練された芸術形式に進化した。

また、ベトナムではお香を焚く文化がある。竹芯香（ちくしんこう nhang tằm tre）という竹の軸に香料を塗りつけて、乾燥して作られたもので、儀礼やお祭り、イベントなどのお供物として使われるほか、日常生活の中で香りを楽しむために使用される。旧正月（テト）の時期が最大の需要期となり、産地全体がフル稼働するという。それに合わせて個性的なお香立ても作られ、会場には芸術的なお香立てが数多く出品されていた。



水人形
※JSI撮影



お香立て
※JSI撮影



ベトナムで開催された「秋のフェア」

様々な業種の企業もビジネスの機会を広げるために出展をしていた。

ホーチミン取引所に上場しているベトナム国際銀行（VIB）は、来場者に向けて新規口座開設を促していた。またビナミルク（VNM）やマサングループ（MSN）の子会社であるウィンコマースが運営するウィンマートやビナミルク（VHM）は仮設売り場を設け、来場者に向けて自社製品の試食会なども行っていた。このように来場した消費者に向けた取組みの他に、B to Bのビジネス機会創出の動きもあった。電気機器を扱うグレックスグループ（GEX）は、主力商品であるCADIVI（電力ケーブル）、THIBIDI（変圧器）、EMIC（電気計測機器）の実物を展示し、製品紹介と商談をしていた。他にも飲食店に向けて、料理を配膳してくれるロボットウェ이터の展示や、輸送用タンカーの展示、タイヤや携帯電話など、企業が出展したブースは業種・規模を問わず国内産業の発展を狙ったものとなっていた。

現在、ベトナムは経済成長の真っ只中にある。スタンダードチャータード銀行によると、2025年のGDP予想成長率が7.5%と見込まれており、ファム・ミン・チン首相はGDP成長率8%以上、その後は2桁成長を目標と設定し、経済発展に向けた取組みに前向きな姿勢を示している。10月7日には、英指数算出会社のFTSEラッセルがベトナム株式市場の市場区分を“フロンティア”から“第二新興国”に格上げし、国内外からの投資がより一層加速する環境が整いつつある。世界銀行によると、FTSEに加えて同業のMSCIも格上げをすると2030年までに250億ドル（約3兆7,000億円）もの海外投資を呼び込む可能性があるとして予測している。2018年、クウェートがベトナムのようにフロンティア市場から第二新興国市場に引き上げられた。当時のクウェートはベトナムとほぼ同じ市場規模を有しており、FTSEの市場区分格上げ後には約7億ドルの資金流入があった。2019年にはMSCIも格上げを発表し、追加で11億ドルもの資金流入があった。このように、市場区分が引き上げられることによって海外投資は加速度的に増加した。しかし現在、ベトナムは外国人に投資規制を設けているため資金流入が伸びづらい環境にある。このような規制や取引所のシステム問題など課題はまだあるが、徐々に改善が進んでいる最中であり、今後投資環境が整備されることで更なる発展が期待できる。



ロボットウェ이터 ※JSI撮影



グレックスグループ（GEX） ※JSI撮影



ビナミルク（VHM） ※JSI撮影

（執筆：Japan Securities Co., Ltd. 研修生・柏崎）

免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者またはジャパン証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようにお願いいたします。